

発達障害児早期支援研究所活動報告書

所 長 高橋 純一

○研究目的

本研究プロジェクトは、自閉症幼児を対象とした遊びの教室を展開することで、以下の目的を達成する。①自閉症幼児教室（つばさ教室）で幼児への発達支援を行うこと、②保護者教室で保護者への支援を行うこと、③学生ボランティアによる活動および教員養成としての教育活動、の 3 点を実施した。

○研究メンバー

< 研究代表者（研究所長） >

高橋純一（人間発達文化学類・准教授）

< 研究分担者（プロジェクト研究員） >

鶴巻正子（人間発達文化学類・教授）

< 連携研究者（プロジェクト研究員） >

山崎康子（発達障害児早期支援研究所研究員）

洞口英子（発達障害児早期支援研究所研究員）

○研究活動内容

< つばさ教室の運営 >

プロジェクト研究員の洞口を中心としてつばさ教室運営がなされた。

1. 参加幼児

医師により発達障害の診断を受けている幼児や診断は受けていないが発達面の心配のある幼児の計 5 名が参加した。

2. 教室運営

前期は 5～7 月、後期は 10～12 月にほぼ月 2 回（水曜）の午後に教室を実施した。スタッフは午後 12 時 30 分に集合して打ち合わせをし、教室は午後 2 時～3 時 30 分、その後スタッフはミーティングを持って、各幼児の共通理解や活動の改善および発展を図るようにした。教室を実施しない水曜日は教材の作成等の準備、ダンスや手遊び・歌遊びの練習を行った。

平成 28 年度つばさ教室は、学生スタッフ 9 名、発達障害児早期支援研究所の研究員 3 名（後期より 2 名）、教室責任者として鶴巻、高橋が参加し、計 14 名関わった。児童一人に対して個別指導を担当する学生スタッフを 1～2 名

決め、計画的・継続的に関わりを持つようにした。

つばさ教室の実施日程（平成 28 年度）

月日	内容	月日	内容
5 月 11 日	第 1 回教室実施	7 月 27 日	OB 会
5 月 18 日	教材準備	10 月 5 日	教材準備
5 月 25 日	第 2 回教室実施	10 月 12 日	第 8 回教室実施
6 月 1 日	第 2 回教材準備会	10 月 26 日	第 9 回教室実施
6 月 8 日	第 3 回教室実施	11 月 2 日	教材準備
6 月 15 日	第 4 回教室実施	11 月 9 日	第 10 回教室実施
6 月 22 日	教材準備	11 月 16 日	第 11 回教室実施
6 月 29 日	第 5 回教室実施	11 月 30 日	教材準備
7 月 6 日	第 6 回教室実施	12 月 7 日	第 12 回教室実施
7 月 13 日	第 7 回教材準備会	12 月 14 日	教材準備
7 月 20 日	教材準備	12 月 21 日	第 13 回教室実施

つばさ教室の実施内容（平成28年度）

時間	内容	活動のねらい
14:00	入室 ①出席カード ②おしぼり ③名札 ④持ち物	・できることは自分でやるように誘い、手助けの必要な場合は、「頼む」言葉を引き出しながら。 ・自分のバッグなどの持ち物は自分の机の脇に置かせる。
14:05	自由遊び	・室内の遊具で遊びながら、大人や友達との関わりを広げる。 ・担当者が他児の名前を呼びかけたり、順番や交代の場面を持ったりして。
14:15	ダンス	・活動の切り替え ・動作の模倣・身体の動き
14:20	始めの会 ①呼名 ②今日の予定 ③手遊び・歌遊び ④読み聞かせ	・児童の椅子をホワイトボード前に準備しておく。 ・担当者が今日の「当番」の児童と会を進める。 ・手遊び・歌遊びを一つ、絵本を一つ程度用意。
14:35	今日の活動 (運動遊び・集団遊び)	・児童は自分の椅子を移動する。 ・友達との活動 ・活動にそった体の動き ・約束ごとへの意識 ・気持ちの安定
14:50	個別学習	各児童に応じた、描

		く・書く・見る・読む・手の操作などの学習 ・児童の興味を生かしながら援助する。
15:10	おやつタイム (保護者へのフィードバック)	・友達との場面の共有 ・約束ごとへの意識や落ち着いた行動 ・当番児童の役割を入れる。 ・お代わりは飲み物・食べ物各1回まで。
15:25	帰りの会	・活動の振り返りや当番児童への称賛 次回の予告
15:30	さようなら	・挨拶をして、自分の持ち物を持って退室する。

<保護者教室の運営>

プロジェクト研究員の山崎を中心として保護者教室運営がなされた。

1. 参加保護者

今年度は5名が参加し、新規参加者は3名であった。今年度は新たに、会長、副会長、会計、研修の担当を決め、保護者の主体的な活動や横のつながりを高めていくように工夫した。

2. 教室運営

昨年度の反省として、「保護者どうしても話したい」という要望が出されていたため、今年度は話しやすい場の雰囲気を設定するようにした。テーブルの位置を工夫し、参加者どうしが向き合えるようにした。机にテーブルクロスをかけて、毎回、コーヒーを飲みながら気軽に話せるように明るい雰囲気をつくった。

つばさ教室の様子をマジックミラー越しに観察する時間では、自分の子どもだけでなく、他者（他の子ども、先生、学生ボランティア）との相互作用についても興味をもって観察し

た。

学生によるフィードバックの時間には、子どもたちの活動の様子を具体的に聞くことができ、教材等の要望についても話すことができた。子どもたちの良いところを話してくれることから、保護者の子どもに対する新たな気づきもあり、楽しみにしている時間となった。

改善点としては、保護者どうしのコミュニケーションをもっと取りたいということがあげられた。そのような場所を保護者どうしで構築していく必要性も感じた。

は将来の教職を考える上で重要な役割を果たしている。

保護者教室の実施内容（平成28年度）

時間	内容
14:00	集合・本日の内容の説明
14:05	「5分間のワンポイントのお話し」 担当：高橋
14:25	本日のテーマ 保護者どうしの意見交換
14:50	子ども教室の参観
15:15	学生による保護者へのフィードバック
15:40	子どもとの再会，終了

※「5分間のワンポイントのお話し」

- ① 体と運動の発達
- ② 向社会性—集団を見る視点—
- ③ 感情の発達
- ④ 古典的な認知発達理論
- ⑤ 感情を介した社会的相互作用
- ⑥ 子どもを肯定的に見ること
- ⑦ デンマークの特別支援教育Ⅰ
- ⑧ デンマークの特別支援教育Ⅱ

＜学生ボランティアに対する教育活動＞

つばさ教室の役割の1つとして、学生ボランティアに対する教育活動（教員養成）がある。

1年生4名、2年生5名が学生ボランティアとして参加した。前期は、前年度を経験している2年生を中心として教材作成や幼児への支援について1年生への伝達がなされた。後期からは、1年生がメインとなり（2年生は補助となり）、幼児への支援が展開された。

教育実習を控えた時期に、幼児と接することは、学生にとっても有意義である。また、保護者との関わりも学ぶことができる利点がある。教材作成の方法も学ぶことができ、教員養成段階の学生にとって、つばさ教室で得られた経験